

Program Note

♪ ヤナーチェク：おとぎ話

1910年作曲、1923年改定。「おとぎ話」(Pohádka)は、ヴァシーリー・ジュコーフスキーの詩『皇帝ベレンデイの物語』(皇太子イワンが許嫁である冥府の王女マリヤのもとに行き、結ばれるまでを題材としている)に基づいて作曲された。

全曲はロンド形式、一部ソナタ形式で書かれ、叙情と劇的場面が交錯する。

第1楽章 コン・モート - アンダンテ

第2楽章 コン・モート - アダージョ

第3楽章 アレグロ

♪ ショスタコーヴィチ：チェロ・ソナタ ニ短調 Op.40

1934年作曲。ショスタコーヴィチ唯一のチェロ・ソナタ。ボリショイ劇場の元首席チェロ奏者であった、ヴィクトル・クバツキーの勧めで作曲された。初演は同年12月25日レニングラード音楽院で、クバツキーのチェロとショスタコーヴィチのピアノによって行なわれ、クバツキーに献呈された。

古典的な構成と現代的な感覚が融合し、20世紀のチェロ作品の代表的な名作のひとつと考えられている。

第1楽章 モデラートーラルゴ、ソナタ形式の後に、葬送行進曲が続く独特の形式。

第2楽章 3部からなるワルツ風の楽章。最後は力強く結ばれる。

第3楽章 深い抒情性のあるラルゴの楽章。

第4楽章 ユーモラスなロンド楽章。ショスタコーヴィチ的なロンド主題の後に、ピアノの強奏とチェロの飛躍するような音型で全曲が鮮やかに結ばれる。

♪ ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第4番 ハ長調 Op.102-1

1815年作曲。ベートーヴェンはチェロ・ソナタを5曲作曲している。第4番は5曲中最も短い作品で、自筆譜には「ピアノとチェロのための自由なソナタ」と記されており、一部では「幻想ソナタ」とも呼ばれている。

ピアノの名手アンナ・マリア・エルデーディ伯爵夫人に献呈された。伯爵夫人の邸宅には、優れたチェリストのヨーゼフ・リンケが間借り逗留しており、この作品はリンケとエルデーディ伯爵夫人のために作曲された。

第1楽章 アンダンテの序奏とアレグロ・ヴィヴァーチェの主部。主部はソナタ形式。

第2楽章 アダージョとテンポ・ダンダンテとアレグロ・ヴィヴァーチェで構成されており、アレグロ・ヴィヴァーチェはロンドに近いソナタ形式。

♪ ブ람ス：チェロ・ソナタ 第2番 ヘ長調 Op.99

1886年作曲。ブ람スは1886年から1888年にかけての夏の間、友人であり詩人のヴィトマンに勧められて、スイスの避暑地トゥーン湖畔で過ごした。チェロ・ソナタ第2番もそうした環境の中で作曲された。チェロとピアノのための重要なレパートリーの一つと位置づけられており、ブ람スの深い感情や独特の和声の美しさが、この作品を特別なものになっている。

第1楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ、ソナタ形式。

第2楽章 アダージョ・アフエットウオーソ、三部形式。

第3楽章 アレグロ・パッショナート、三部形式。スケルツォ風の楽章。

第4楽章 アレグロ・モルト、ロンド形式。

プラチナ・コンサート・シリーズ Vol.16

北村陽 チェロ・リサイタル

Yo Kitamura Cello Recital

大伏 啓太 (ピアノ)

Keita Obushi, Piano

2024年12月11日 (水) 19:00 開演 Hakuju Hall

7:00 p.m., Wednesday, December 11, 2024 at Hakuju Hall

主催：ジャパン・アーツ

Hakuju Hall / 株式会社 白寿生科学研究所

Program

ヤナーチェク：おとぎ話 Janáček : Pohádka (Fairy-tale)

第1楽章 コン・モート - アンダンテ	1st Mov.: Con moto - Andante
第2楽章 コン・モート - アダージョ	2nd Mov.: Con moto - Adagio
第3楽章 アレグロ	3rd Mov.: Allegro

ショスタコーヴィチ：チェロ・ソナタ ニ短調 Op.40 Shostakovich : Cello Sonata in D Minor, Op.40

第1楽章 アレグロ・ノン・トロツポ	1st Mov.: Allegro non troppo
第2楽章 アレグロ	2nd Mov.: Allegro
第3楽章 ラルゴ	3rd Mov.: Largo
第4楽章 アレグロ	4th Mov.: Allegro

* * *

ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第4番 ハ長調 Op.102-1 Beethoven : Cello Sonata No.4 in C Major, Op.102-1

第1楽章：アンダンテ - アレグロ・ヴィヴァーチェ	1st Mov.: Andante - Allegro vivace
第2楽章：アダージョ・テンポ・ダンダンテ - アレグロ・ヴィヴァーチェ	2nd Mov.: Adagio - d'Andante - Allegro vivace

ブラームス：チェロ・ソナタ 第2番 ヘ長調 Op.99 Brahms : Cello Sonata No.2 in F Major, Op.99

第1楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ	1st Mov.: Allegro vivace
第2楽章 アダージョ・アフエットウオーソ	2nd Mov.: Adagio affettuoso
第3楽章 アレグロ・パッションート	3rd Mov.: Allegro passionato
第4楽章 アレグロ・モルト	4th Mov.: Allegro molto

今後のプラチナ・コンサート・シリーズ 会場：Hakuju Hall

2024年12月20日(金)19:00 千住真理子ヴァイオリン・リサイタル

2025年3月25日(火)19:00 ピアノ三重奏の夕べ

松田華音 (ピアノ)、成田達輝 (ヴァイオリン)、遠藤真理 (チェロ)

Profile

北村 陽 (チェロ) Yo Kitamura, Cello



2004年生まれ。9歳でオーケストラと初共演し、翌年初リサイタルを行う。2017年第10回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールに満場一致で優勝。2022年第18回ハチャトゥリャン国際コンクール第2位。2023年第29回ヨハネス・ブラームス国際コンクール第1位。第92回日本音楽コンクール第1位を受賞し、全部門を通じて最も印象的な奏者に贈られる増沢賞、岩谷賞(聴衆賞)、黒柳賞、徳永賞、INPEX賞を受賞。2024年9月ジョルジュ・エネスク国際コンクールのチェロ部門で日本人として初優勝。同年11月バプロ・カザルス国際賞第1位を受賞と、次々に快挙を成し遂げて注目をあびる。これまでに小林研一郎、高関健、大友直人、藤岡幸夫、山田和樹、アンドレイ・フェーヘル各氏の指揮により、多数の楽団と共演。2020年ユリアン・シュテッケルの代役で井上道

義指揮、読売日本交響楽団と共演し好評を博す。2021年霧島国際音楽祭受賞。遠山基金、宗次エンジェル基金/日本演奏連盟、ヤマハ音楽振興会、ジェスク音楽振興会、江崎スカラシップより奨学金を授与され、第52回江副記念リクルート財団奨学生、2023、24年度ロームミュージックファンデーション奨学生。現在、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コースにて堤剛、ベルリン芸術大学にてイェンス=ペーター・マインツ各氏に師事。これまでに山崎伸子、室内楽を磯村和英各氏に師事。使用楽器は上野製薬株式会社より貸与された1668年製カッシーニ。

大伏 啓太 (ピアノ) Keita Obushi, Piano

東京芸術大学、同大学院卒業。

全日本学生音楽コンクールピアノ部門高校の部全国大会第1位、日本音楽コンクールピアノ部門第3位、2015年ピナーレ国際コンクール(ドイツ)優勝など、国内外のコンクールで優勝、入賞を重ねるほか、室内楽奏者としても共演者からの絶大な信頼があり、著名な演奏家との共演は多岐にわたる。

ソロCD《FANTASIE》が2018年7月に、またチェリスト佐藤晴真氏とのCD《The Senses~ブラームス作品集》が2020年秋に、それぞれリリースされている。

2017年より桐朋学園大学、2023年より東京音楽大学にてそれぞれ教鞭を執る。桐朋学園附属『子供のための音楽教室』仙川教室講師を務めるほか、仙台、福島、東京の各地でマスタークラスを開催するなど後進の指導にも精力的にあたる。

ウェブサイト <https://www.keitaobushi.com/>